

日中の日差しは柔らかく残りつつも、朝晩は肌寒さを覚える季節になりました。
空気の中にほんのり“金木犀”の香りが混じり、秋の訪れを知らせてくれます。
子ども達は、飛び交う赤トンボを追いかけながら季節の移ろいを全身で感じ、
元気いっぱいに園庭を駆け回っています（笑）



♡♡♡ チグハグも宝物… 挑戦する年中児 ♡♡♡

年中児達が新しい「課題」に挑戦しています！ “縄跳びの連続跳び30回”
挑戦の道のりはなかなか一筋縄ではいきません。

腕と足の動きを同時に合わせるの、年中児にとっては大きな挑戦です（笑）
縄を一生懸命に回すと足が止まってしまい、跳ぼうとすると縄が止まってしま
う… そんな“チグハグな動き”に、思わず笑顔がこぼれます。

縄跳びのコツは「手首で縄を軽く回すこと」「大きく跳ぶことよりリズムよく
弾むように跳ぶこと」最初は難しくても、何度も挑戦するうちに少しずつタ
イミングがつかめてきます。一定のリズムで縄を回せるようになると不思議と
足が縄にひっかからなくなります。

「3回跳べた！」「10回できた！」と記録を伸ばした時の嬉しそうな笑顔は
子ども達の努力の証です。友達同士で数を数え合う姿や応援し合う姿からは
子ども達の心の成長が伝わってきます（笑）



㊦㊦㊦ 小さなお兄ちゃんお姉ちゃんデビュー ㊦㊦㊦

来週から始まる保育見学会より一足先に、園庭で遊ぶ「つぼみぐみ」の子ども達の様子を未就園のお子さんと保護者
の方が見学に来られました。

その瞬間、いつもは兄姉に囲まれ“未っ子”として甘えているつぼみぐみの子ども達が、ここぞとばかりにお兄ちゃん
お姉ちゃんぶりを発揮（笑） 小さな手を繋いで「こっちだよ！」「一緒に遊ぼう！」「貸してあげる！」と声をか
ける姿は、とても誇らしげで頼もしく見えました。

普段の園生活で、年上の子ども達に自然と助けてもらい、優しく声をかけてもらってきた経験が、「誰かにしてあげ
たい！」という気持ちに繋がっていると感じます。

年齢や立場が違って、互いに影響を受け合い、思いやりや憧れを育んでいく… それが白ゆり幼稚園の「育ち合い」
の環境です。

ほんのひとときの見学の中に、子ども達の成長の芽が輝いて見える場面がありました。これからも日々の関わりの中
で、優しさや自信が育まれていくことを保護者の皆さんと一緒に見守っていきたいと思います。

「教育」とは？～「知育」「徳育」「体育」「食育」～

子ども達の成長を考えると、「教育」という言葉の奥にはとても幅広い意味が含まれています。単に学力を高め
ることではなく、人として生きていくために欠かせない基盤を整える…それが教育の役割で、特に幼児期におい
ては「知育」「徳育」「体育」「食育」とい“4つの柱”をバランスよく育むことが大切です。

1、「知育」～学ぶ喜びを育てる～

「知育」とは、知識を与えること以上に「学ぶことって楽しい！」という気持ちを育むことを意味します。幼
児期の子ども達は、絵本を通じて言葉を覚えたり、遊びの中で数や形に親しんだりしながら、自然に「考える
力」を伸ばしていきます。この時期に大切なのは、正解を覚えることではなく「なぜだろう？」「もっと知り
たい！」という好奇心を引き出すことです。大人が答えを急いで与えるのではなく、一緒に考えたり試したり
することで、自分で学ぶ力の芽が育ちます。やがてその経験が、将来の学習意欲や問題解決力に繋がります。

2、「徳育」～心を育て、人と繋がる～

徳育とは、相手を思いやる心や社会の中で生きるためのルールを学ぶことです。友達との遊びの中で生じる
「貸して」「順番だよ」といったやりとりや、時にはぶつかり合う経験も、子どもにとって大切な学びです。そ
の過程で「我慢する」「譲る」「謝る」「感謝する」といった心の動きを体験し、人との関わり方を学んでいき
ます。徳育が育つと、子どもは自己中心的な行動から一歩ずつ社会性を身につけ、仲間と協力し合う喜びを知
ります。家庭や園での「ありがとう」「ごめんね」という小さな言葉の積み重ねが、将来の人間関係を豊かに
し、子どもの生きる力を支えるのです。

3、「体育」～体を動かし、心も育つ～

幼児期の子どもにとって、体を動かすことは心の発達にも直結しています。走る・跳ぶ・転がるといった全身
を使った遊びは、小脳の発達を促し、運動神経の基盤をつくります。さらに「できた！」という体験は自信に
つながり、挑戦する意欲を育てます。現代は安全面や生活環境の変化により、外で思いきり体を動かす機会が
減りがちです。しかし幼児期にこそ、自然の中で遊び、友達と一緒に汗を流す時間が必要です。体を育てるこ
とは、健康な生活習慣を支えるだけでなく、忍耐力や協調性といった心の力も養います。体育は単なる運動能
力の向上ではなく、子どもが人生をたくましく歩むための土台です。

4、「食育」～命を感じ、感謝する心を育む～

食育は、ただ「好き嫌いをなく食べる」ことを教えるものではありません。食べ物の大切さを知り、命をいただ
くことへの感謝を持ち、健やかな体をつくる生活習慣を学ぶことです。「これはにんじんだね」「このお米は田
んぼで育ったんだよ」といった会話を通じて、子どもは食と自然や人とのつながりを実感します。食事は親子
の心を通わせる大切な時間でもあり、家族と一緒に食卓を囲むことで安心感や絆が深まります。また、食事の
マナーを学ぶことも社会性を育てる一環です。「いただきます」「ごちそうさま」と言えることは、人や自然へ
の敬意を表す行為でもあります。

幼児期にバランスよく4つの柱を体験することは、一生の財産となります。保護者の皆さまと共に、この大切
な時期に子どもたちが「生きる力」をしっかりと身につけられるよう、私たちも日々の保育に努めてまいりま
す。